



CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区

いわき勿来ロータリー・クラブ

会長 嵐 繁雄
幹事 林 毅彦
SAA 鈴木 正人
会報小委員長 遠藤 洵

○例会日 毎週水曜日 (12:30 ~ 13:30) ○事務局 TEL/FAX (0246) 56 - 3473
○例会場 ホテルミドリ E-mail:info@iwakinakoso-rc.jp

第 2882 回 例会 令和 3 年 12 月 8 日 (水・雨)

2021 - 22 年国際ロータリーのテーマ
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

会員卓話 富澤藤利会員

ロータリーソング 奉仕の理想

— 今月は疫病予防と治療月間です —

ロータリーの行動規範
木幡智清 会員



◎会長挨拶—嵐 繁雄会長

皆さん、こんにちは。先週は当クラブの総会があり、次期の新理事役員が決まりました。改めて紹介すると次期副会長に林会員、次期副幹事に鈴木敏広会員が就任することになりました。宜しくお願ひ致します。今ニュースで騒いでいる新しいウイルスのオミクロン株が早いスピードで拡大しているようです。新しいニュースではオミクロン株はあまり重症者が出ないコロナだというのが解って来ました。感染スピードが早いので皆さんも充分気を付けて下さい。国内では 3 例目が出たようで、徐々に近づいているような気がします。県内では昨日 1 名の感染者が見つかりました。また、中国で冬季オリンピックがありますが、アメリカが外交的ボイコットをすると表明しました。日本はどのような対応をするのか非常に難しいと思います。オリンピックも中国国内だけの観客で開催するそうです。今年の日本の状況を思い出すような感じです。それから今日 3 時からいわき市から補助を受けた 60 周年事業植田駅、勿来駅、岩間に背伸ばしベンチを設置工事した検査を受けることになっています。鈴木雅之 60 周年事業実行委員長と私と工事を請け負っていただいたサウンド藤和さんとで検査に立ち合います。植田公民館の幕も工場で作業が進んでいるとのこと。私からは以上です。

◎幹事報告—林 毅彦幹事

・岡崎南ロータリークラブより週報が届いています。



・いわき平東ロータリークラブ、いわき平ロータリークラブ、いわき平中央ロータリークラブより 12 月のプログラムが届いています。

- ・高萩勝利会員へメジャードナー記念品が届いています。
- ・第 2530 地区より壮行会の御礼が届いています。
- ・佐川様より長久保赤水の一生ということで寄付のお願いが届いています。
- ・本日例会終了後に理事会を開催致しますので宜しくお願い致します。

◎各委員会報告

◇出席委員会—鈴木正人 SAA

本日の出席状況は下記の通りです。なお本日は、出席奨励賞をお渡し致します。佐藤政司会員、木幡会員前の方へどうぞ。おめでとうございます。



◇スマイルボックス委員会



—小澤啓一小委員長

・会員スピーチ宜しくお願いします。嵐会長、斉藤副会長、星会長エレクト、林幹事、木幡、鈴木、富澤、木村(義)、柏原、佐藤(政)、高萩、小澤、鈴木(雅)、渡邊公平パストガバナー、白井、川口各会員

・前回休んでごめんなさい。吉野副幹事、木幡会員
・出席奨励賞ありがとうございました。

佐藤(政)、木幡各会員

◎マルチプル・ポールハリス・フェロー授与

清水信弘会員へマルチプル・ポールハリス・フェロー第 2 回が届いています。本日清水会員が欠席されていますので後日お渡し致します。今日は報告だけさせていただきます。

◇親睦活動委員会—嵐 繁雄会長

私の方からクリスマス家族例会についてご報告を致します。まず、バザーですが例年通りバザーを行いたいと思います。来週の例会の時に持参して頂いても結構ですし、当日会場にお持ち下さってもかまいません。出来るだけ多くの品が集まるように宜しくお願いします。現在の参加者は会員が 23 名、ご家族が 9 名の計 32 名です。まだ時間がありますので出席出来る会員は今からでも申し込みを宜しくお願いします。

◎SAA からのお願い—鈴木正人 SAA

ここ数回の例会の会員卓話が連絡が行き届いていないのか担当委員会通りに行えておりません。今日は国際奉仕委員会が担当の会員卓話ですが、鈴木小委員長はリモート参加、大平副委員長は欠席という状況です。そこで富澤会員へお願いすることになりました。富澤会員急なお願ひで申し訳ありません。宜しくお願い致します。また、来週はロータリー財団委員会の会員卓話予定となっています。プログラムに掲載されていますので今後担当される委員会の皆さん宜しくお願いします。

◎会員卓話—富澤藤利会員



皆さん、こんにちは。只今鈴木さんからお話がありました通り本日卓話をさせていただく富澤です。宜しくお願いします。私は 70 歳までクレハに勤務し、その後、退職し農業と物書きをやっています。クレハは約 5,000 人の従業員がいて、家族を含めると約 1 万人に

なります。その中で物書きをやっているのは私 1 人だけです。今まで 4 冊の本を発行させていただきましたが、2 冊目は福島大学の地域復興支援センターで学生の教科書として使われています。今日お話しする昨年出した 4 冊目の「大河の流れ」は福島県の県庁図書館に寄贈し皆さんに見ていただいています。今日は私の実家に関わる群馬の養蚕業について話をしたいと思います。群馬の養蚕業は国際化のテーマに相応しい内容であると思います。絹の国ぐんまは、古くから絹産業の盛んな地であり、絹に関する沢山の文化財等が残されています。私が生まれた富澤家の総本家も日本遺産「かかあ天下—ぐんまの絹物語」の文化財として登録されていることもあり、養蚕農家の次男坊の私にとって養蚕は身近な生活に密着した生活そのものでした。明治初期から日本政府は国策として製糸技術の近代化に努め、絹産業は国が掲げた「富国強兵殖産興業」を支える輸出産業の主流となりました。皆さんも御存知の富岡製糸場という世界遺産が群馬県にはあります。この富岡製糸場は明治 5 年にフランスの技術を導入した日本初の本格的製糸工場であり、製糸技術開発の最先端として国内の養蚕製糸業界を世界一の水準に牽引しました。長さ 100 メートルを超える木骨レンガ造りの置繭所や操糸所が創業当時のまま残されています。開国した日本は、「富国強兵殖産興業」の路線に沿って技術の導入に努め、独自の養蚕技術の革新により、原料繭の増産にも成功しました。その繭糸は横浜から世界中に輸出され高級織物の絹を身近な存在に変えました。女性達は蚕の世話、他の農作業、食事づくりと休む間もなく働き、農家の働き手の中心として働く姿を私は見て育ってきました。上州名物「かかあ天下」と言う強い女性のイメージがありますが、実は働き者で家計を支えた女性のことであり、古くから絹産業が盛んな上州では女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え近代化になると製糸工女は織手としてますます活躍しました。こうした成功物語の陰で、日本の絹製糸技術をタイに駐在し伝授した女性がいました。富岡製紙工場に勤務していた小金澤さわです。明治 16 年群馬県北甘群馬山村生まれです。22 歳の時、国策として養蚕を海外へ輸出しようと要請があり、横浜から蒸気船に乗り明治 38 年(1905 年)先輩の工女と 2 人政府派遣という立場で王宮の中にあつた養蚕学校で王族の子女に製糸を教育することになりました。

出席状況	正会員数 本日出席会員数	40 名 27 名	カード出席 本日の修正出席率	0 名 67.50%
------	-----------------	--------------	-------------------	---------------